

# 東急グループ代表・東京急行電鉄(株)取締役社長 野本弘文

## 年頭あいさつ【要旨】

東急グループ

### 1. 東急グループ代表 野本弘文 年頭あいさつ（東急グループ各社トップに対する年頭あいさつ）

(1) 日 時 2017年1月4日(水) 9時10分

(2) 要 旨

まずは、グループ各社で大きな事故もなく、無事に新年を迎えられたことを喜びたいと思います。

2016年度も、あと3か月となりました。グループ各社の業績は概ね順調ですが、日本経済全体では足踏み状態といったところですよ。昨年のイギリスのEU離脱決定やアメリカ大統領選でのトランプ現象など、予想も出来ない事象が今後も起こってくるでしょう。正月の新聞には新年のキーワードとして、「断絶」「不確実性」「変化」といった活字が多く見られましたが、それらは昔から言われている言葉です。東急グループとして世の中の流れに惑わされず、しっかりとした信念や基軸をもって対応することが大切です。

訪日外国人客数の伸びは、鈍化傾向にあるとはいえ、アジア新興国の所得拡大は今後も続いていくでしょう。引き続き外国人客の消費動向変化に対応した事業展開をお願いします。また2月24日から始まる「プレミアムフライデー」には、すでに創意工夫を重ねたグループ連携により準備を進めていますが、この事業機会を確実にとらえ、併せて各社社員の働き方を変える契機にもしてください。

2017年度は、東急電鉄は現経営計画の最終年度であり、東急不動産ホールディングスは新たな経営計画がスタートする年です。昨年は、3月の東急プラザ銀座の開業、4月に「東急でんき」のサービス開始、7月には仙台空港の運営開始など、グループ各社が連携した事業を躍進させた1年でした。

今年の東急グループのトピックスですが、1つ目は「渋谷キャスト」の開業です。渋谷駅周辺では、「100年に一度」と言われる大規模再開発が進捗しており、東急電鉄と東急不動産は6つのプロジェクトを進めています。東京五輪の行われる2020年にかけて順次竣工しますが、その先駆けとなる施設が、渋谷と原宿の間に建つ「渋谷キャスト」です。東急ストアの新業態が入店するほか、共同住宅は東急住宅リースや東急ライフィアが運営を行います。グループ一体となってこの魅力ある施設の開業準備を進めてください。

2つ目は、伊豆観光列車「ザ ロイヤル エクスプレス」の運行開始です。東急電鉄と伊豆急行が連携し、横浜～伊豆急下田間で7月から運行します。併せて4月に「下田東急ホテル」のリニューアル開業、「下田ロープウェイ」と寝姿山山頂の飲食施設の改装も予定しています。グループを挙げて「ザ ロイヤル エクスプレス」の誕生を盛り上げ、地域の方々と連携し、伊豆の活性化に貢献しましょう。

各社トップの皆さんに伝えたいこととして、「三つのCH」があります。チャンス、チェンジ、チャレンジですが、この中で一番大事な言葉は「チャレンジ」です。世の中が「チェンジ」してきたところに、必ず「チャンス」が生まれますが、これに「チャレンジ」しなければ何も生まれません。同時に成果を出すためにも、「チャレンジ」への事前準備やタイミングの判断もしっかりお願いします。

東急グループには、お客さまと信頼によって結ばれる多くの「顧客接点」があります。またグループ事業の「ネットワーク」や「組み合わせ」により、さらなるサービスや商品が生まれるなど、他にはない強みを持った企業集団であると考えます。これらの強みに磨きをかけるためにも、「自立と共創」がグループの経営理念の根幹であることを胸に刻み、各社の着実な成長を図り、またお客さまに選ばれ続けるブランドとして、コンプライアンス経営にもしっかりと努めていきましょう。

## 2. 東京急行電鉄(株)取締役社長 野本弘文 年頭あいさつ (東急電鉄社員に対する年頭メッセージ)

(1)日 時 2017年1月4日(水) 10時10分

### (2)要 旨

鉄道をはじめ、各事業の第一線で勤務している現場の皆さんが、年末年始も変わらず「安全」の確保に取り組んだおかげで、責任事故もなく、こうして新年を迎えることができたことを感謝したいと思います。

公共交通事業をはじめ、お客さまの生活を支える事業を営む者として、「安全の確保」は最大かつ最重要の責務です。また安全に加えて「快適さの追求」も大事であり、お客さまの東急ブランドに寄せる信頼の源泉です。「安全の確保」の大切さを、一人ひとりが当事者意識を持って、運営や保守管理の強化に努めてください。

現行の中期3か年経営計画「STEP TO THE NEXT STAGE」の2年目となる2016年度は、皆さんの努力により、増益の達成が視野に入りますが、世界経済や国際情勢には不透明感があり、事業環境が大きく変化する可能性もあります。単年度のみに焦点を当てず、持続的成長に向け、日々の業務に邁進してください。2017年度は、その最終年度にあたり、また次期中期経営計画の策定年度です。5年後の2022年には、当社の創業100周年を迎えます。各部門で2022年のあるべき姿を想定し、「何を志し、何を実現するのか」を明確化した上で、あらためて2017年度に立ち戻り、重点課題に対応してください。

鉄道事業では、更なる支障時対応力の強化、ホームドア整備、田園都市線の混雑率緩和に向けた大井町線の輸送力増強を進めてください。今夏には伊豆の観光列車の運行開始が予定されています。伊豆急行や外部企業などとの連携により、お客さまが伊豆を訪れるきっかけづくりとしてください。

不動産事業では、今春いよいよ渋谷・宮下町に渋谷キャストが開業予定です。また次期3か年計画のコアプロジェクトの1つである南町田再開発が、来月のグランベリーモール閉店を経て本格着手となります。渋谷や二子玉川に次ぐ新たな沿線拠点とすべく、交通・リテール等と連携しながら、計画の最後の詰めを進めてください。

生活サービス事業では、一般向け電力小売事業がスタートして9か月になりますが、ケーブルテレビやカードなどのグループの既存事業と組み合わせた利便性向上により、一層の顧客基盤の拡大に繋げてください。

リテール事業では、本年、「クイーンズスクエア横浜[アット! ]」とクイーンズイーストの一体運営に向けた体制整備とリニューアルが予定されています。収益性の維持・向上のため、引き続き、成長戦略の実行にあたってください。

国際事業では、ベトナム・ビンズン新都市において、目下販売中の高層住宅「SORA gardens」も2017年の全戸完売が視野に入ってきました。ベトナムやタイでの新規案件の検討も推進してください。

また昨年は仙台空港の運営を開始しました。当社が交通事業や商業施設運営などで培ってきた知識や、グループの結束力を最大限に活用し、運営の安定化と今後に向けた更なるノウハウの蓄積をお願いします。また、今後も増加が見込まれるインバウンド向けの事業機会創出を推進してください。

先に触れたとおり、2017年度は現行経営計画の最終年度、かつ新たな経営計画への橋渡しとなる大切な一年です。渋谷、二子玉川、南町田など沿線の街づくりが、継続して「スパイラルアップ(螺旋的発展)」し、当社全体の成長を底上げするよう、全社一丸となって取り組んでいきましょう。

以 上